

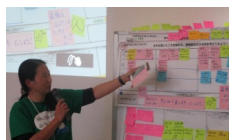
小和田地区 防災“も”まちづくりニュース ～第3回 防災×まちづくりワークショップ～



おしえるマップ作成 & グループ討議

小和田地区まちぢから協議会の辻堂駅西口周辺まちづくり部会は、地域住民の皆様の防災意識の啓発及び防災まちづくりに取り組むきっかけ作りとして、茅ヶ崎市と全3回のワークショップをYU-ZUルームで実施してきました。

最終回となる今回は、小学生班と大人班に分かれてグループワークを実施しました。小学生班は、第2回ワークショップのまちあるきを振り返り、「役に立つところ」「キケンなところ」をまちに住んでいる人に紹介するため、「おしえるマップ」を作成しました。大人班は8班に分かれ、まちあるきで発見した課題のうち、解決したい課題の解決の方向性と具体的な取組のアイデア、思い描くまちを表すキャッチフレーズを考えました。参加者は各班の代表者が話し合いの内容をまとめて発表したものを聞き、良いと思ったアイデアとキャッチフレーズに投票しました。



1月26日(日) 第3回 防災×まちづくりワークショップ プログラム

《開会のあいさつ》

赤松町自治会
瀬戸 孝 会長

《振り返り》

ワークショップの振り返り

《グループワーク》

【小学生班】「おしえるマップ」を作ろう！
【大人班】この“まち”をより良くするために・・・
“まち”の課題解決の方向性を考えよう!!

《講評・講演》

加藤孝明教授からの講評・講演

《発表》

小学生班・大人班それぞれの代表者から発表

《閉会のあいさつ》

小和田地区まちぢから協議会
辻堂駅西口周辺まちづくり部会
小宮 宏文 会長
小和田地区まちぢから協議会
新倉 昭人 会長

《開会のあいさつ》

第1回のワークショップで加藤教授にお話をいただき、大きな地震が起こるとどうなるかということをお子さんからご高齢の方まで勉強させていただきました。第2回のまちあるきでは、このまちの課題や資源を発見することができたと思います。天気にも恵まれませんが、震災は天気を選んでくれないので、いい経験にもなりました。お子さんが楽しそうに参加していたので、大人も負けていけないなと思いました。発見した課題や資源が今後のまちづくりにつながっていくようにするためにも、本日のワークショップで活発な発言をお願いします。



赤松町自治会
瀬戸会長

発行日：令和2年3月6日

発行責任者：小和田地区まちぢから協議会 辻堂駅西口周辺まちづくり部会

《グループワーク》 小学生班 「おしえるマップ」を作ろう！

ワークショップに参加した7人の小学生は、災害が起こった時に「役に立つところ」、「キケンなところ」を、まちに住んでいる人に紹介するための、「おしえるマップ」を作成しました。紹介したい場所の名前、写真、場所の説明をカードに記入し、ワークショップの最後には、代表者が自分の作ったカードについて発表しました。



完成版「おしえるマップ」



前回のまちあるきと同じメンバーで振り返りを行い、数ある課題の中から解決したい課題を選び、解決の方向性と具体的な取組のアイデアを検討しました。また、思い描くまちを表すキャッチフレーズを考えました。

1班 キャッチフレーズ 個人と地域がつながる、みんなの顔が見えるまち

特に解決したい課題は？	解決の方向性は？	どのような取組をする？
①通学路にある高い塀	・高い塀があるところは通学路から外す	・通学路の見直し（行政からのアプローチ）
②自販機が倒れるかもしれない	・課題を資源にする	・災害時無料提供機の設置を地域から企業に働きかける
③防災倉庫の鍵 →どこにある？誰に貸していい？	・誰もが分かるようにしておく	・倉庫に鍵のあるところを表示する ・もっと多くの人がカギを持つ
④保育園の子たち避難できる？	・地域と保育園のつながりを作る	・お年寄りと園児向けに平日防災訓練を行う



①については、塀をなくしていくという方法もあると思いますが、地域で働きかけると個人攻撃になってしまうので、通学路の見直しを提案します。②は課題をなくすのではなく資源に変えるための方法を考えました。個人が地域とつながってほしいという思いを込めてキャッチフレーズを決めました。
(1班発表より抜粋)

2班 キャッチフレーズ 大人の意識改革!!

特に解決したい課題は？	解決の方向性は？	どのような取組をする？
①交通に関する課題 ・スピード ・自転車 ・見通し ・夜の暗さ	・道路にマークを描く ・カーブミラーを設置する ・歩行者の意識改善 (お金をかけずに解決したい)	・道路のマーク、カーブミラーは、地域で設置場所を考える ・標語を考える (大人への教育を!)
②防災倉庫の中身、鍵を 誰が持っているのか知らない	・中身については掲示する ・鍵の管理は見直し	・地域で話し合っ方針を決める
③消火器が見つけづらい	・目立つようにする	・旗をつける ・地面に位置を示すステッカーを貼る



①は狭い道路でスピードを出す車がいることや、見通しの悪さを解決するために、地域で話し合っ、道路にマークを描く場所や、カーブミラーの設置場所を検討することを考えました。どの課題を解決するためにも、大人の意識改革が必要だと思い、キャッチフレーズを決めました。
(2班発表より抜粋)

3班 キャッチフレーズ ポーっと住んでるんじゃないよ!! みんなで知ろう赤松防災まちづくり

特に解決したい課題は？	解決の方向性は？	どのような取組をする？
①防災倉庫の鍵のある場所が 分からない	・所有者の周知をする	・鍵所有者の銘板を倉庫に貼り付ける
②東小和田公園トイレの 非常時の使い方	・管理の考え方（掃除等） ・周知	・3自治会給水訓練の時に周知する
③消火器に気づきにくい	・見やすくする ・配置図の各戸配布を徹底する	・除草する ・もう少し高所に設置する ・新しいものに取り換える ・災害発生時に点灯する警告灯をつける
④危険なブロック塀	・生垣やフェンスに変える	・行政からの補助があることを周知する ・地域で「モデル住宅」を決める ・学童の通学路を再検討する



②について、東小和田公園にトイレがあることを知っている人が少なかったため、3自治会合同の給水訓練の時に周知し、災害時も利用できればと思います。③については、消火器が目立つように、消火器周辺の除草を行うことや、火災発生時に光る警告灯を設置することを考えました。
(3班発表より抜粋)

4班 キャッチフレーズ 安全 安心 赤松町

特に解決したい課題は？	解決の方向性は？	どのような取組をする？
①消火器の場所がわかりにくい	・設置場所の周知をする ・使い方もいっしょに周知する ・設置する数の再検討をする	・消火器の場所、使い方が分かるマップを作成する ・箱の交換や色の塗替え、看板を設置 ・訓練で使い方を周知する ・行政に協力を依頼する
②住民にクラスターの意識がない	・住民意識の改善を行う	・住民に危険性（クラスター）を周知する ・隣人が何をしているのか知る (まちに興味をもつ)



①は消火器の設置場所を周知することあわせて、使い方も周知する必要があると思いました。具体的には、消火器の設置場所と使い方が分かるマップを作成し配布するのが良いと思います。②はハード面の整備は時間がかかるので、まずは住民にクラスターを周知する必要があります。
(4班発表より抜粋)

6班 キャッチフレーズ みんな家族 赤松町 まずは「遠い」しんせきから!!

特に解決したい課題は？	解決の方向性は？	どのような取組をする？
①関心の低い層が多い	共助：人のために何かやろうと思う人を増やす (キーワード「エサ」)	・備蓄品をおいしく食べるコンテスト ・学校へ行く週間や近所で身近なもので皿づくり、放水訓練等の防災講座（エサ：卒業式、運動会を最前列で見られる） ・自治会行事に強制参加!! 楽しいイベントを合わせて実施 (エサ：楽しい行事・ごはんを食べられる・賞味期限が近い備蓄品を配る)
②行き止まり道路がキケン	看板を設置	・行き止まりがぱっと見てわかるマークを入れた看板を設置（小学生から募集）



①の課題を解決するためには、人のために何かやろうと思う人を増やす必要があると考えました。そのためのキーワードは「エサ」だと思います。例えば、自治会の行事を行うとしても、楽しいイベントと一緒に実施するなどして、多くの人に参加してもらう工夫が必要だと考えました。

(6班発表より抜粋)

7班 キャッチフレーズ 多世代で、教えあい、みんながもの知りで、助け合えるまち

特に解決したい課題は？	解決の方向性は？	どのような取組をする？
①移動式ホースや四角池の使い方がわからない	・使ったことがあるようにする ・誰が分かっているか、どこに行けば分かるかを知れるようにする	・避難訓練で教えてもらう ・小中学校、保育園で連携して取組む (ふれあい講座、防災訓練)
②消火器が目立たない	・目立ち、夜でも見えるようにする ・位置がわかるようにする	・分かりやすい場所に置く ・赤ではなく目立つ色や蛍光にする ・消火器の位置を示す看板を作る (「〇〇m先に消火器あり」など) ・小学生と消火器を探す(ゲーム形式) ・消火器の位置が分かるマップや看板を作り 回覧板、まちからHPなどで発信



①については、移動式ホースや四角池の使い方がわからない人が多いと思い、みんなが使ったことがあるようにする必要があると考えました。そのために、避難訓練で使い方を伝えたり、ふれあい講座などで小中学校、保育園と連携して取組む必要があると考えました。

(7班発表より抜粋)

8班 キャッチフレーズ 赤松ワンチーム!!

特に解決したい課題は？	解決の方向性は？	どのような取組をする？
①狭い道、入り組んだ道 (行き止まりが多く緊急車両がたどりつかない)	・道を広げる ・都市計画を強化する	・区画整理
②災害時の飲料水不足 (東小和田公園の貯水量だけでは足りない)	・災害が起きた時、水に困らないようにする	・各自の備蓄に向けた啓発 (自治会通信で100 t 水槽は1日分しかないと伝える) ・各自が水の必要量を把握し、ろ過機を設置するなどして雨水を利用、貯水する ・マンションとの連携 (敷地内の活用、貯水槽の設置)



②の解決方法として、まずは東小和田公園の貯水槽だけでは2日以上持たないかもしれないことを、周知する必要があると考えました。また、住民それぞれが水の必要量を考えて、貯水することが大事だと思いました。自助・共助が重要であることを考えて、キャッチフレーズを決定しました。

(8班発表より抜粋)

9班 キャッチフレーズ YU-ZUルームでみんなで手をつないで良いまちにしよう!
(地域・行政) 最後はニンゲンのモンダイだ!!

特に解決したい課題は？	解決の方向性は？	どのような取組をする？
①貯水槽の周囲の環境が良くない	・飲料水として使用できるという安心感を持てるようにする	・マンホール周りをきれいに整備 ・普段から使用する (もちつきなどの行事の時)
②火災に関する課題 ・延焼の危険性が高い ・消火器が分かりにくい ・移動式ホースの場所や鍵番号がわからない	・クラスターへの対策 (今あるものを使う) ・消火器、移動式ホースがどこにあり、どう使うか周知し目立つようにする	・消火器が入っている箱の色を塗る ・防災対策課の補助金で道具を用意 ・使い方の研修会をYU-ZUルームで行う
③行き止まりの路地	・今後増やさない	・行政と相談していく ・その場所へ行きそこに住む住民がどこに逃げたらいいか考える



①については、東小和田公園の貯水槽の周辺環境が悪く、飲料水として安心して使用できないので、整備を行うことや、行事の際にも利用してみることを提案します。まちづくりは人を変えていくことが大事だと考え、このキャッチフレーズにしました。

(9班発表より抜粋)

～投票結果～

<取組みアイデア>

-  **1 備蓄品をおいしく食べるコンテスト（6 班）**
-  **2 自治会行事に強制参加!!
楽しいイベントを合わせて実施（6 班）**
-  **3 消火器の位置が分かるマップや看板を作り
回覧板、まちからHPなどで発信（7 班）**

※ 2 位の 6 班と 7 班のアイデアは票数が同じでした

<キャッチフレーズ>

-  **1 ポーっと住んでるんじゃない!!
みんなで知ろう赤松防災まちづくり（3 班）**
-  **2 YU-ZUルームで
みんなで手をつないで良いまちにしよう!
最後はニンゲンのモンダイだ!!（9 班）**
-  **3 赤松ワンチーム!!（8 班）**

《講評・講演》

■ まちづくりを進めるモチベーションを出すために必要なこと

まちづくりをするためにやる気や関心を持ってもらうのは、本人にモチベーションがないと難しいでしょう。防災を考えるときは、マイナス(課題)を探すことが多いですよ。発表の中で「課題を資源にする」という意見が出ていました。マイナス(課題)を小さくするための取組よりも、マイナス(課題)を一気にプラス(資源)にすることを考えると楽しくなってくるかもしれませんね。

「エサでつる」という意見も出ていました。楽しみというエサがあれば、人はモチベーションがわいてくるものです。前向きに考えるためには、まちづくりや防災から少し軸をずらして、何かしらの楽しみを見つけていくことも必要だと思います。継続的に取り組むことで、結果として人づくり、まちづくりにつながっていきます。

■ 今後も防災“も”まちづくりをつづけるために

具体的な取組を進める上で重要なのは、なにかしらの目に見える成果をまちに出していくことです。この 1 歩を踏み出せるかどうか非常に重要です。小さくてもいいので目に見える成果があれば、参加していない人も気づいてくれるでしょう。そして次から次へと展開していくと思います。



加藤教授からワークショップを修了した辻堂駅西口周辺まちづくり部会へ、認定証書が渡されました。

《閉会のあいさつ》

今回も多くの方に参加していただき、小和田の皆さんがこんなにも防災に関心があるということ、皆さんの絆が非常に強いんだということをつくづく感じております。このワークショップは、みなさんの防災意識の啓発と、防災まちづくりに取り組むきっかけ作りを目的に始めましたが、もともと皆さんが持っていた防災意識を更に高めることができたと思っています。

これで終わりにすることなく、今日みなさんから出た意見に基づいて、2/25（火）に検討会を実施します。そちらにも参加いただけると嬉しいです。このワークショップにご協力してくれた皆さま、本当にありがとうございました。

このまちは大きく変化しています。今後も変化していくことでしょう。このまちに 3 世代前から住んでいる方はどのくらいいるのでしょうか。1 割もないと思います。つまり、このまちがどう変わるかに、ご先祖様の責任はいささいありません。ここに集まっている人がまちをつくっていくのです。

今日は「まちづくり」のための「ひとづくり」という話がありました。近所で火災が起きたら気になって見に行くことがありますよね。これが原点だと思います。まちに興味関心を持ち、危機感を持つことが重要です。

参加していただいたみなさんで、まちのことを考えるいい討議ができたと思います。今後ともよろしくお願いします。



小和田地区まちから協議会
辻堂駅西口周辺まちづくり部会
小宮会長



小和田地区まちから協議会
新倉会長

<問合せ先>

茅ヶ崎市 都市部 都市政策課

電 話：0467-82-1111 FAX:0467-57-8377

E-mail：toshiseisaku@city.chigasaki.kanagawa.jp